



# 校長の目 ～西小日々通信～

令和4年9月12日（月）



校長室の外から子供たちの楽しそうな声が聞こえてきました。窓を開けてみると、1年生の生活科の授業で虫探しをしているところでした。草むらから飛び跳ねるバッタを追いかけて大騒ぎです。一人が捕まえるとみんなが駆け寄ってきます。捕まえた子は、ちょっとしたヒーローです。まだ捕まえていない子に持たせてあげたり、一緒に探したりして、和気あいあいと活動していました。「校長先生、捕まえたよ！」と言って、見せに来てくれる子もいました。



高学年の外国語の学習は、中学年の外国語活動の要素を受け継ぎ、歌やチャンツ（一定のリズムに英単語や英文を乗せて発音する指導）を取り入れながら英語に親しむとともに、中学校1年生の学習につながる英語表現も学びます。今日の5年生の授業では、「できることとできないことを伝えよう」というめあてにそって、“Can you ~ ?” “Yes, I can.” “No, I can't.”といったフレーズを会話を通して学びました。本校は、西部地区学力向上のための授業研究会指定校として委嘱を受け、11月9日に授業を公開します。



2年生の算数では、たし算・ひき算の筆算を学びます。数字の桁数が増えたり、数値設定によっては繰り上がりや繰り下がりがたくさん出てきますので、一つ一つの手順を正確に行うことが求められます。繰り上がりや繰り下がり、10の構成分解と20までのたし算・ひき算がスムーズにできないとつまずく原因となります。

本時の課題は、146 - 89の筆算の仕方を考えることです。これまでの学んできた繰り下がりのやり方が、ここでも使えるかどうかを考えます。子供たちは、アルゴリズム（計算の手順）にそって計算していきます。繰り下がりが2回出てくるので、慎重に計算しなくてはなりません。



筆算をするときに、よく保護者の皆様からいただくお話として、「自分が習った時とやり方が違うので、教えられない。」というものです。特に、補助数字（繰り上がりや繰り下がり、横に小さく書く数字）の書き方が違うことをご指摘されます。実は、補助数字を書くか書かないか、また書く場所については、きまったルールはありません。完全なローカルルールのため、学校によって違うことが多々あります。大切なことは、自分で納得した方法を選択すること、計算になれてきたら補助数字を減らしていくことです。本時は、子供の考えをもとに、思考の流れが見えやすいよう少し多めに書いていますが、繰り下がりの意味とやり方を理解したら、ゆくゆくは自分の判断で補助数字を減らしていけるといいでしょう。